新東名高速道路（秦野市寺山地区）
建設事業埋蔵文化財発掘調査

寺山中丸遺跡
（秦野市No.192 遺跡）

主催　（公財）かながわ考古学財団
共催　秦野市教育委員会

寺山中丸遺跡の調査

秦野市寺山に所在する寺山中丸遺跡の発掘調査は、中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴い、平成 25 年 10 月 16 日より開始しました。

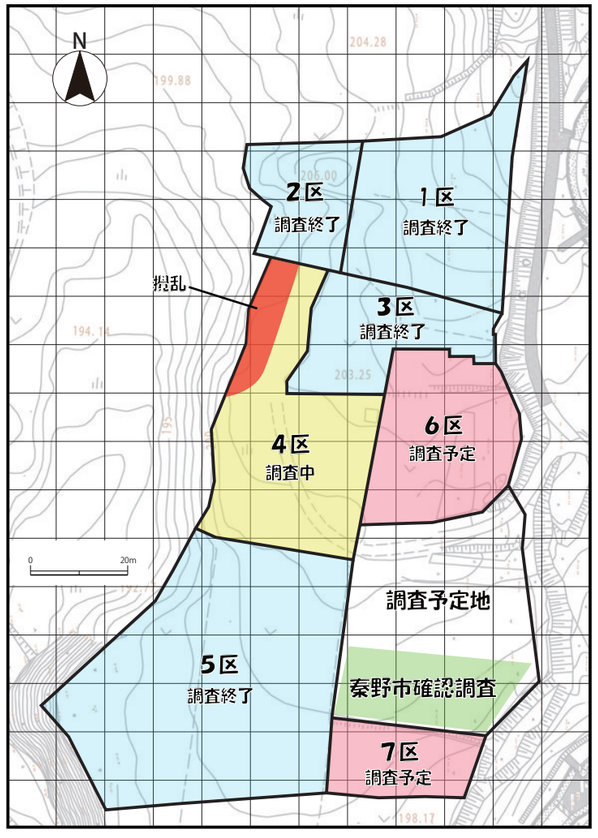
調査は区画を分けて進め、１～３・５区の調査を終え、現在４区の調査を行っています。

これまでに近世の掘立柱建物・耕作痕跡（畝や溝、土坑など）、奈良・平安時代の竪穴住居跡、縄文時代中期の竪穴住居跡、集石、落とし穴と思われる土坑、草創期の石器製作跡が発見されています。また、旧石器時代の調査ではＢ０層に礫群３箇所、Ｌ１Ｈ層に黒曜石片などの出土も確認しています。

出土遺物は、近世の陶器や磁器、奈良・平安時代の土師器や墨書土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、縄文時代草創期～後期の土器や石器といった遺物が出土しています。

現在調査している４区は、表土掘削が終わり、近世と奈良～平安時代の遺構や遺物を発見できる堆積層をスコップで掘っています。関東ローム層が見える高さまで掘り下げるなかで、縄文時代の遺構を確認します。そのあとは、旧石器時代の調査に移行する予定です。

寺山中丸遺跡の位置［1/50,000］



調査区配置図と進行状況

左上の写真は遺跡地南側より大山に向かって撮影した空中写真です。右上の写真は寺山中丸遺跡（右）と蓑毛小林遺跡（左）を真上から撮影したものです（撮影時期：平成 26 年１月）。蓑毛小林遺跡とはおよそ 200m離れています。寺山中丸遺跡は東に中丸沢、西に小蓑毛沢に挟まれた標高およそ 202～207mを測る西に面した緩斜面上に立地しています。遺跡の北側には標高 1,251mの大山が、東側には標高 556mの高取山が位置します。

【調査の概要】　※遺構と遺物は、平成 27 年２月 28 日時点の内容

◇遺跡名　寺山中丸遺跡 (秦野市№192 遺跡)
◇所在地　秦野市寺山 1094-3 外
◇調査期間　2013(平成 25) 年 10 月 16 日～調査中
◇調査面積　4,764 ㎡（１区：1122 ㎡ / ２区：500 ㎡ / ３区：673 ㎡ / ５区：2649 ㎡）
◇発見された遺構
近世以降：掘立柱建物１棟・段切り１箇所・溝状遺構 11 条・土坑 95 基・畝群 11 箇所
古代（奈良・平安時代）：掘立柱建物１棟・竪穴住居跡７軒・土坑 20 基
縄文時代（前期～後期）：竪穴住居跡２軒・集石 16 基・土坑 97 基（落とし穴 26 基）
縄文時代草創期：石器製作跡
旧石器時代：礫群２箇所
◇出土した遺物
近世以降：陶器・磁器
奈良・平安時代：墨書土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・瓦
縄文時代：土器 (草創期・早期・前期・中期・後期)・石器・土製品
旧石器時代：石器

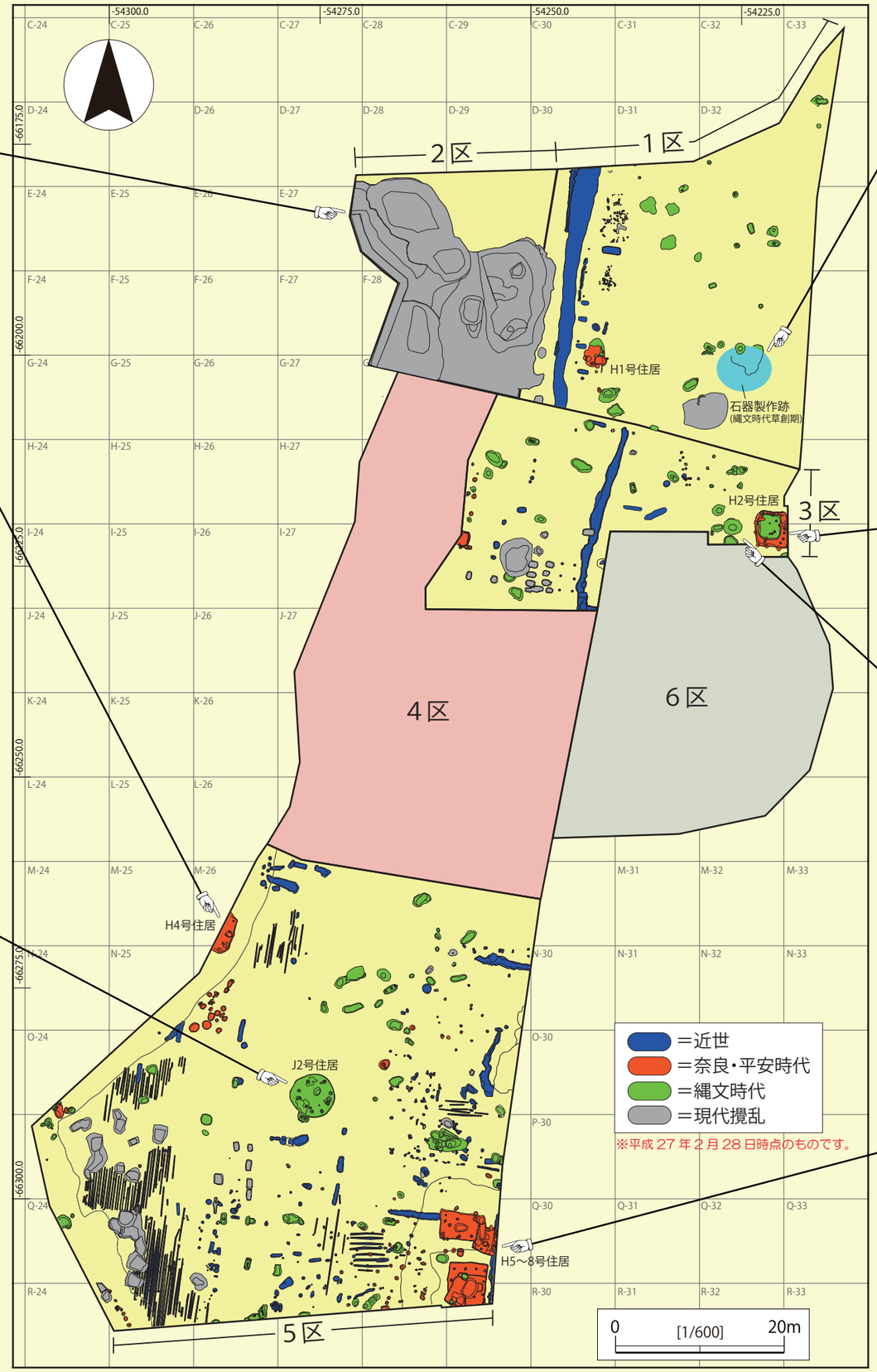
※矢印は、今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示したものです。
※この内容は調査段階のものであり、今後の調査成果や出土品等整理などにより評価を変える場合があります。

【2区の現代攪乱】　ローム層を削ってます・・・

【H3号住居】
調査区際は
地滑りで落ちています

【J2号住居】　中央付近に石囲い炉が検出されました。

J2号住居出土の縄文土器（縄文時代中期）



寺山中丸遺跡（秦野市 No. 192 遺跡）　遺構配置図 [1/600]

【縄文時代草創期
の石器製作址】
範囲からは有舌尖頭
器や石を削った剥片
と隆起線文土器の破
片が出土しています

【H2号住居】　土師器や須恵器の破片が
たくさん出土しました

【J12号集石】　焼け礫など800点以上入ってました

墨書土器「子」

墨書土器「本？」

【古代の集落跡】
住居が4軒！
中には墨書土
器を発見して
います

考古学財団
文化庁
AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS
地域の特性を活かした
史跡等総合活用推進事業

新東名高速道路（秦野市寺山地区）
建設事業埋蔵文化財発掘調査
寺山中丸遺跡現場作業見学改配布資料
2015(平成27)年3月21日
公益財団法人かながわ考古学財団
〒232-0033　横浜市南区中村町3-191-1
Tel：045-252-8689　Fax：045-261-8162
HP：http://kaf.or.jp